第24回地域医療現地研究会に参加して

えがおでいきいき 安心して暮らせる地域包括ケア

～住み慣れたまちでその人らしい暮らしを～

＜香川県・綾川町＞

国診協地域医療・学術委員会委員／千葉県・国保直営総合病院君津中央病院長
鈴木紀彰

平成22年5月13日(木)・14日(金)の2日間にわたり、香川県綾川町において、国診協の第24回地域医療現地研究会が開催された。北海道から鹿児島までの各施設から、前年を上回る280名の参加者が集合した。

綾川町は瀬戸内海に面する香川県のほぼ中央に位置し、町名の由来となった綾川は南東部の山中を源とし、讃岐平野を流れ坂出市で瀬戸内海に注いでいる。この地区は大変古い歴史を持っており、日本における「うどん」の発祥地といわれている。その由来とは、弘法大師（空海）が唐への留学から帰国し姉の嫁いでいた当地を訪ねた際、唐で習ってきた「うどん」をうって振舞ったことにあるそうだ。

今回の研究会は、綾川町の北部にある国保陶病院と中部にある国保綾上診療所を中心に開催された。

研修前日－5月12日(水)

平日にもかかわらず、羽田空港から高松空港へのジャンボジェット機はほぼ満員の盛況だった。高松空港から小型の乗合バスで宿泊地、琴平町にある金比羅宮の参道に程近い琴参閣という巨大なホテルに向かった。

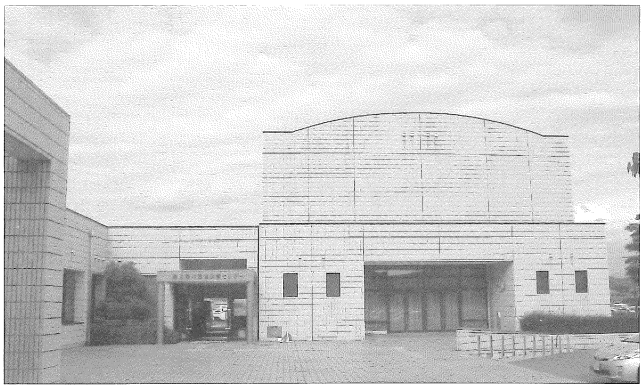
午後、ホテル内の広い部屋で開催された国診協の地域医療・学術委員会に初めて参加し、今回および次回の現地研究会、全国国保地域医療学会開催地域の担当の方々から話を聞き、冬の地域包括医療・ケア研修会（平成23年1月21日・22日開催）につき協議した。夜はこのホテルでゆっくり休ませてもらった。

研修1日目－5月13日(木)

［開講式］

ホテルで朝食をすませ、バスで会場の綾川町に向かった。午前10時から町の中央部に位置する綾川町綾上

開講式が行われた綾上農村環境改善センター



開講式

昼食は地元の有名うどん店で

農村環境改善センターの多目的ホールで開講式が行われた。まず、廣畑衛新会長より健康保険制度のこれからの方向や今回の診療報酬改定の傾向について触れる開会の挨拶を、また、地元綾川町の藤井賢町長より綾川町の位置の説明や弘法大師との縁の詳しい話を交えた歓迎の挨拶をいただいた。その後、列席の来賓を代表して伊藤善典・厚生労働省保険局国民健康保険課長（代読：光行栄子保健事業推進専門官）と香川県の真鍋武紀知事（代読：川部英則・健康福祉部長）の二方から挨拶をいただいた。

続いて本研修会の概要について、香川県国民健康保険診療施設協議会副会長で綾川町国保陶病院長の大原昌樹先生と綾川町国保綾上診療所長の十枝めぐみ先生から説明が行われた。

綾川町は約110km^{2}の地域に2万5千人余の人が住み、高齢化率は約28％と上昇してきている町である。藤井町長のもと保健、福祉に力を入れ、北部に陶病院を中心に国保総合保健施設の「えがお」と介護老人保健施設「あやかわ」を、中部に綾上診療所を中心に国保総合保健施設「いきいきセンター」を備え、これらの施設を中心に見学した。その他に羽床上（はゆかかみ）診療所と枌所（そぎしょ）巡回診療所を運営している。

今回の研修会の中心である陶病院は、昭和29年に診療所として開設され、昭和49年に37床を備えた綾南町国保病院となり、平成16年に新築・移転し現在の63床（一般35床・療養28床）となっている。常勤医師は9名で内科、小児科、耳鼻咽喉科などの診療を行っている。

もう一つの中心となる綾上診療所は、外来患者数一日平均80名を数え、十枝先生が所長を兼任する羽床上診療所と枌所巡回診療所を各週交代の派遣医師とともに運営されている。

［昼　食］

昼食は、参加者全員が6班に分かれ、名物の讃岐うどんの歴史やおいしい食べ方の話しをうかがいながら、バスでグループごとに異なったうどん屋さんに向かった。私は「はゆかうどん」という店で「おろしぶっかけうどん」を食べたが、本場の讃岐うどんはとても腰があり顎が疲れるほどであった。

［施設視察］

施設見学は大きく2グループに分かれ、3つの班は、まずバスで町北部の陶病院へ、残りの3班は町中部の「いきいきセンター」へ向かった。

陶病院では、まず国保総合保健施設の「えがお」の2階で説明を受けた後、3班に分かれて「えがお」、老人保健施設「あやかわ」、陶病院の外来、病棟、そしてリハビリテーション部門と通所施設を見学した。見学終了後は再び3グループが「えがお」の1階ホールに集合して質疑応答が行われた。

次の「いきいきセンター」では農改センターで説明を受けた後、センター内「綾上診療所」外来、リハビリテーション室、「いきいき」の3部門をそれぞれの

陶病院（向かって右）と「えがお」（同左）

「えがお」で施設詳細について説明を聞く

陶病院が力を入れる睡眠呼吸障害センター
（持続陽圧呼吸療法用の器具）

綾上診療所（向かって右）と「いきいきセンター」（同左）

陶病院玄関横に設置された「バス発車案内装置」

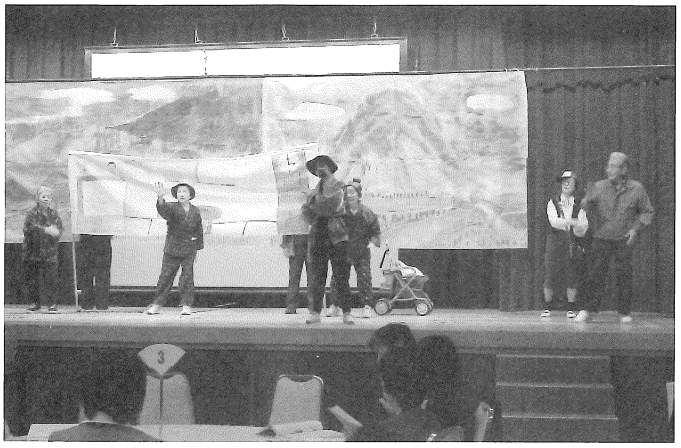
「いきいきセンター」には清涼飲料水に含まれる糖分をわかりやすく掲示

班に分かれて見学した。見学の後また一か所に集合して質疑応答が行われた。

どちらの地域でも、国診協の目標としている地域包括医療・ケアが効率的に実践できるように配慮された施設の配置で、地域住民の方々がシームレスな診療および保健サービスが受けられるように運営されていた。バスでの移動中には羽床上診療と枌所診療所を車窓より見学し、夕方に宿泊場所の「琴参閣」に戻った。

ころば～ずの「いきいき体操物語」

綾川まちかど劇団の「わっせてもえ～がえ～が」



現地研究会では初めてのグループワークでの全体討議

［地域医療交流会］

夜は大広間に集合し、ほぼ全員で交流の時間を持った。地元の料理に舌鼓を打ち、歓談の一時を過ごした。

さらに、交流会の後は場所を移動して「地域医療について大いに語ろう」と名づけた、少人数での話し合いの時間を持ち、夜遅くまで大いに盛り上がった。

研修２日目－５月14日（金）

［全体討議］

２日目は琴参閣「瀬戸の間」において朝９時より、「えがおでいきいき安心して暮らせる地域包括ケア」～住み慣れたまちでその人らしい暮らしを～のテーマで、住民といっしょに参加者全員で地域包括ケアを考える全体討議を行った。

討議では、陶病院長の大原昌樹先生と綾上診療所長の十枝めぐみ先生に座長を勤めてもらい、２件の発表を見学した。

まず「いきいき体操物語」の題で、「ころばーず国保綾上診療所」という職員の皆さんの転倒防止の体操の発表があり、参加者全員で体を動かした。

続いて「わっせてもえ～がえ～が」の題で綾川町介護予防サポーター、綾川町地域包括支援センターなど住民の皆さんの「綾川まちかど劇団」による認知症をテーマにした発表を見学した。

発表が終わった後、発表者の皆さんにも参加してもらい、小グループに分かれた話し合いを行い、綾川町における住民参加について理解を深めることができた。住民と国保診療施設および行政職員との共同作業が進んでいることに感銘を覚えた。

最後に、厚生労働省の光行専門官と国診協の青沼孝徳副会長を助言者に迎えて全体討議を行い、続いて閉講式で２日間の日程を終了した。

２日間を通じ、高齢化の進む地域での住民に密着した地域包括医療・ケアの一つの理想に近い形に触れることができ、これからの国保診療施設の進むべき方向につき学ぶことができた。参加者一同、それぞれの地元に戻り、毎日の業務を再検討して明日につなげるべく努力したいと思い散会した。